平成３１年度中山道広重美術館事業計画

当館は、風景画の名手「広重」の名を冠する地方には珍しい浮世絵の専門美術館である。今年、中山道広重美術館は開館 18 年目を迎え、当公益財団法人が恵那市から中山道広重美術館の指定管理業務を受託して 5 年目となる。あらためて、歌川広重の作品を中心とする質の高い浮世絵版画の展示や体験・学習などの仕組みを通して、来館者により大きな感動と満足感を持ち帰っていただけるよう努める。

そのため、今年度の展示事業では、4 月からの春季特別企画展として「歌川国芳の時代－木曽街道六十九次之内を中心に－」を開催する。この展覧会では、当館所蔵作品

≪木曽街道六十九次之内≫を中心に、名古屋テレビ放送（株）のご協力を得て、武者絵を力強く描き出したことで知られる歌川国芳の画業を振り返る。

8 月末からの特別展観では、当館コレクションの中でも最も美しい広重の≪木曽海道六拾九次之内≫全点を堪能していただく。続いて 9 月末からは、秋季特別企画展「新版画展－浮世絵版画のその後－」を開催する。江戸時代に誕生した浮世絵は、明治末期には収束してしまったが、その技術は「新版画」として大正・昭和へと受け継がれた。

川瀬巴水・小原古邨・伊東深水などの作品を中心に、その知らざれる魅力に迫る。

年度末の 3 月には、平成 30 年度に市基金で購入した歌川国貞の≪木曽六十九駅≫揃物 71 枚のお披露目展示を開催する。この展示により、広重・英泉の≪木曽海道≫、国芳の≪木曽街道≫と合わせ、中山道を描いた全てのシリーズの展示が完了する。

教育普及事業では、秋季特別展で「新版画」を展示することに合わせ、連続講座として「浮世絵の残照―明治・大正・昭和の版画―」をテーマに全 6 回を開講し、近代浮世絵や新版画に特化した内容で各講師から講演をいただく。

また、第１６回広重賞こども版画コンクールを開催するとともに、学芸員実習生の受け入れも、積極的に取り組んでいく。

施設整備では、建設から 19 年を迎え、老朽化や機能低下が目立つ施設のリニューアルを進める。今年度市事業では、館内の防犯警備セキュリティシステムの更新を行う。

近年の外国人観光客の増加に伴い、当館の入館者も約 10 分の 1 は、外国人となってきた。そのため、国際観光に対応する英語表記を充実するとともに、広重や浮世絵の魅力をわかりやすく紹介するための新たな学習映像（日本語・英語）を作成する。

平成 29 年 10 月からスタートした美術館スポンサー制度は、この秋には 3 年目を迎えるが、市民や旅行者にも順調に認知されてきた。この制度の継続に努めるとともに、さらにその輪が広がるよう働きかけていきたい。

以上、今まで取り組んできた活動の一つ一つを大切にしながら、一方では新しい試みにも挑戦しつつ、浮世絵の専門美術館としての役割をますます高めていきたい。

１．公益目的事業

展示

	区分	事業名	開催期間	事業概要
1	春季特別展	歌川国芳の時代 －木曽街道六十九次之内を中心に－	前期 4月4日（木） ～5月6日（月） 後期 5月10日（金） ～6月9日（日）	武者絵を力強く描き出したことで広く知られる歌川国芳。近年は風景画・役者絵・美人画・戯画など、さまざまな画題に腕を振るっていたことも注目されている。国芳はその豊かな発想力と斬新なデザイン力で、魅力的な作品を数多く制作した。当館が誇る国芳の揃物《木曽街道六十九次之内》を中心に、その画業を振り返る。
2	企画展	うるわしき女（ひと）たち －広重描く江戸美人－	6月13日（木） ～7月15日（月・祝）	広重は、今や風景画の名手として名高いが、若い頃は美人画を多く手掛けていた。広重の描く美人画は、端正で気品があり健康的だ。立ち姿を描いた作品では、衣装の細部まで手を抜いていない。艶やかな広重の美人画をお楽しみいただく。
3	企画展	水と共に生きる	7月19日（金） ～8月18日（日）	水は人々の生活に欠かせないもの。特に江戸の町は「水の都」と言われるほど、水とは切っても切れない関係にあった。本展は水辺の風景や水中の生き物、あるいは水と共に暮らす人々の生活など、「水」をテーマにした展覧会。
4	特別展観	木曽海道六拾九次之内	8月22日（木） ～9月23日（月・祝）	当館コレクションの中でも最も美しい揃物の一つである《木曽海道六拾九次之内》を、全点展示。歌川広重と渓斎英泉、江戸の二大浮世絵師が中山道をテーマに描いたシリーズを展観。

5	秋季特別展	新版画展―浮世絵版画のその後 ―巴水・古邨・深水を中心に―	前期 9 月 27 日（金） ～10 月 27 日（日） 後期 10 月 31 日（木） ～12 月 8 日（日）	江戸時代に誕生した浮世絵は明治末期には収束してしまったが、絵師・彫師・摺師の高度な技術によって作り出される絵画は「新版画」として継承され、それらの作品には広重の作品に通ずる構図の捉え方なども見出すことができる。浮世絵が近代に残した木版の伝統美をご覧いただく。
6	企画展	「ニッポンのえんぎもの」	12 月 12 日（木） ～2020 年 1 月 19 日（日）	日頃何気なく口にする「縁起が良い」あるいは「縁起が悪い」という言葉。実は私たちの身の回りには縁起物がたくさんある。皆が知っているものから普段はあまり気にしないものまで、江戸時代の人々と一緒に浮世絵に描かれた縁起物を探しに行く。
7	企画展	「保永堂版－東海道五十三次之内－」	1 月 23 日（木） ～2 月 24 日（月・祝）	広重の代表作ともいわれる《東海道五拾三次之内》全 55 図。広重が描いた東海道物は、旅への関心が高まっていた当時の人々にとっては、まさに旅のガイドブック。そしてそれだけではなく、現地の人々との温かな交流など、何気ない旅の一コマを連想させた。作品に描かれた旅人と共に、東海道の旅をお楽しみいただく。
8	企画展	「役者とめぐる木曽街道－木曽六十九駅－」お披露目	2 月 28 日（金） ～3 月 29 日（日）	歌川派三羽がらすといわれた広重・国芳・国貞(三代豊国)の 3 人の絵師は、それぞれ木曽街道をモチーフに作品を制作した。そのうち国貞の手掛けた≪木曽六十九駅≫が平成 30 年度、当館新規収蔵品とな

				った。木曽街道の宿場町を背景とし、名優を前面に大きく描いた本揃物は圧巻。国貞の描いた魅力的な木曽街道をご覧いただく。

教育・普及・調査研究等

	区分	事業名	開催時期	事業概要
1	連続講座 ―全６回―	浮世絵の残照―明治・大正・昭和の版画―	❶4 月 13 日（土） ❷5 月 18 日（土） ❸6 月 22 日（土） ❹10 月 5 日（土） ❺11 月 16 日（土） ❻12 月 7 日（土）	❶加藤陽介氏「国芳イズム－歌川国芳が拓いた幕末浮世絵」 ❷村瀬可奈氏「開化と懐古の明治浮世絵」 ❸前田詩織氏「江戸から近代－描かれた美人表象の展開」 ❹岩切信一郎氏「日本版画の近代－様々なメディアの中で」 ❺渡邊章一郎氏「浮世絵ルネサンス＝新版画」 ❻中村圭子氏「大正～昭和の挿絵」
2	研修受け入れ事業	学芸員実習 職場体験	随時	大学等からの要望が多い学芸員実習、高校生のインターンシップ、中学生の職場体験等を受け入れる。
3	中央通り商店街連携事業	ゆかたで涼む美術館（夜間８時まで無料開館）	8 月中旬	美術館で江戸の夏の風情を楽しんでいただく恒例企画。浴衣でご来館のお客さまに各種サービスを実施。中央通り商店街夏祭りとの連携事業。
4	版画公募展	第 16 回広重賞こども版画コンクール	7 月～3 月	市内の子どもたちに、自己を表現する喜びや作品をつくり出す楽しさを版画を通して体験してもらうことを目的に開催。

5	新たな浮世絵学習のための紹介映像（日本語・英語版）の制作に取り組む。
6	2020 年度特別企画展開催に向けての展示作品の調査、研究、及び資料収集。
7	2021 年度開館 20 周年に向けた記念展覧会の企画構想に関する調査、研究。
8	積立資金によるコレクション形成、新規購入、寄贈作品に関する調査、研究。

２．収益事業

(1) ミュージアムショップの運営

・美術関連商品の企画・商品販売

・展覧会関係グッズ、各種浮世絵図録の販売

３．管理事業

(1) 理事会、評議員会の運営

(2) 美術館施設・設備及び収蔵美術品の適正な管理

・建設 19 年を迎え、老朽化・機能低下した施設・設備の部分修繕（自動ドア、照明等）

・市の事業に協力し、館内セキュリティシステムを更新

(3) 法人の運営